Ⅰ　実践

１　研究主題

だれに対しても公平・公正に接し，差別や偏見をもたない児童の育成

－　家庭との連携を通して　－

（１）主題設定の理由

本校の教育目標は，「ともに伸びよう　やさしく　かしこく　たくましく」を基本理念として，徳・知・体の調和のとれた心豊かな児童の育成を図ることである。

人権教育は，学校教育全体で行われるものである。本校では，毎週水曜日のロングの昼休みである「キッズタイム」に，人権教育の一環として月１回程度の縦割り班活動を行っている。また，毎年行っている人権啓発ビデオの視聴も，今年度は映画鑑賞会として実施した。

全校で取り組むものに加えて，４学年では，日立養護学校との交流学習を続けている。また，市の事業である「助産師等が伝える『いのちの教育』」を４学年の親子学習で実施した。これらと関連させて，誰に対しても公平・公正に接し，差別や偏見をもたない児童を育成するために，１１月には１組が，１２月には２組が道徳の授業を公開した。

（２）研究の内容

ア　４学年親子学習「いのちの教育」

イ　日立養護学校との交流学習

ウ　映画鑑賞会

エ　道徳の授業公開

「いのちの教育」

赤ちゃん人形の抱っこ体験

２　実践内容

（１）４学年親子学習「いのちの教育」（１０月１９日）

保護者には，「心と体の変化」について保健の教科書を読んでおいてもらえるように，学年だよりや週案でお願いしておいた。その上で，子育てに関する悩みなどについての事前アンケートをとり，第２部の質疑で活用した。

児童に対しては，養護教諭をＴ１として保健の授業を事前に行っておいた。担任の経験談も交えて，個人差があることを感じ取れるようにした。

親子学習は２部構成とした。

第１部は，児童及び保護者が参加した。まず，言われないと気付かないほどの小さな穴が１つ開けてある黒い色画用紙を助産師の方から配られた。人間の命の始まりはこの穴ほどの大きさであるということから，命の大切さについて考えることができた。次に，保護者２名に「あなたが生まれたとき」というお話をしていただいた。続いて，男女別になり，聴診器で自分の心臓の鼓動を聴いた。相手が納得すれば，友達同士で鼓動を聴き合うこともできた。そして，赤ちゃん人形の抱っこ体験をした。最後に，児童数名が感想を発表した。

第２部は，保護者のみが参加した。助産師の方から「思春期の子どもの変化と親の対応方法について」のお話を聞き，事前アンケートをもとに質疑を行った。

（２）日立養護学校との交流学習

ア　学年だよりや週案で保護者に実施を伝えた。

イ　事前授業（１０月２６日）

障がいに対する基礎的理解を促すため，日立養護学校の大高教頭先生に，ワークシートと動画を使って「レーナ・マリアさんの生き方に学ぶ」と題した授業をしていただいた。

（ア）　美しい歌を聴いた。

（イ）　両腕がなく，左脚が右脚の半分の長さであるレーナさんの写真を見て，思ったことを書き，発表し合った。

（ウ）　最初に聴いたのはレーナさんの歌であることを確認したあと，「絵をかくこと，歌うこと，読書，水泳，車の運転，ミシン，あみもの，ピアノ演奏，皿あらい，お化粧」の中でレーナさん一人ではできないだろうと思うことを○で囲んだ。

（エ）　（ウ）の項目はすべてできることを見ていった。スウェーデン出身の歌手（ゴスペルシンガー）であり，ソウルパラリンピックにも水泳選手として出場したことを聞いた。

（オ）　レーナさんが言われていやな言葉を，想像して書いた。

（カ）　レーナさんが実際に言われていやなのは「かわいそう」という言葉であると聞いた。

（キ）　授業の感想を書き，数人が発表した。

（ク）　本校の児童代表が，日立養護学校の児童代表から交流活動の招待状を手渡された。

ウ　交流活動（１０月２８日）

（ア）　出迎えを受けた。（体育館前）

（イ）　活動の説明を聞き，発表場所の地図とラリー用のカードを受け取った。（体育館）

（ウ）　日立養護学校の児童には「プレ日養祭」となる発表を，グループごとにウォークラリー形式でまわった。（各教室）

（エ）　なかよし集会を行った。（体育館）

感想発表，「マルモのおきて」を全員で踊る，お礼の言葉など

エ　保護者には週案で様子を伝えた。

（３）映画鑑賞会（１１月２９日）

岸川悦子さん原作の「５等になりたい」を鑑賞した。小児麻痺のため足の不自由な律子が，歩き方がおかしいといじめられて悩む。マッサージ師の石橋先生の「人間にとって一番悲しいことは，身体のハンディよりも心にハンディを持つことだ」という言葉に励まされながら，明るく，たくましく生きていく。その姿を通して，人としてのほんとうのやさしさ，強さとはなにかを考えさせる映画である。

事前に，「ぜひ，おうちの方と読んでみてください。この映画を通して，一人一人の心に大切なものがきっと残ると思います。」として，映画の解説と原作者の言葉を載せたものを配付した。

事後には，児童に感想を書かせた。また，週案で，映画を見た感想を児童から聞いて話し合うように呼びかけた。

（４）道徳の授業公開（１組：１１月６日，２組：１２月２日）

ア　主題名・資料名　　思いやる心を伝えよう「心の信号機」（出典：学研）

イ　内容項目　　２－（２）親切

ウ　ねらい　　困っている人のことを思いやり，進んで親切にしようとする気持ちを育てる。

３　成果

（１）４学年親子学習「いのちの教育」

ア　始まりはほんの小さなものだった命がここまで大きくなったこと，それまでの間には周囲の人たちのたいへんな思いと大きな喜びがあったこと，これからも多少の個人差があっても成長していくことなどを感じ取ることができた。

イ　保護者からは，「そろそろと思っていても，なかなかきっかけの難しい話題なので，こうした機会がいただけることで，話しやすくなると思います。大切な命のリレーですから，正しく伝えていきたいです。」「いつも怒ってばかりですが，子どもが生まれたときのことを思い出し，元気でいてくれることがよかったと思えます。」などの声があった。

（２）日立養護学校との交流学習

ア　事前授業では，最初，ほとんどの児童がレーナさんのことを「かわいそう」と思った。それがいやな言葉であることを知り，レーナさんの生き方を学んだあとは，「いろいろできて」・「幸せと思える気持ちが」・「神様が喜びなどをあたえてくれると思っていて」などの言葉に続けて，「すごい」と書いていた。「わたしも人生を大切にしたい。」「前向きに生きたい。」と書いた児童もいた。授業の最後に，「みんなちがって　みんないい」を合い言葉としようと言われると，何度も聞いたり読んだりして知ってはいても，ワークシートの片隅にメモしている児童も多数いた。

イ　ウォークラリー形式でそれぞれの発表を回るときも，なかよし集会でも楽しくふれあうことができた。

（３）映画鑑賞会

「足が不自由で，歩けるように練習をしていて，学校で友達ができると思っていたのに笑われて，とても悲しかったんだろうな」「りつ子ちゃんみたいな子がいるのなら，仲よくしたい」「友達がこまっていたら，やさしく声をかけて，なやみの相談をしてあげたい・・・ぼくもなやみごとがあったら，お母さんやお父さん，友達に相談したい」「さすがにいじめられてはいないけど，りつ子はわたしの分身みたい・・・りつ子のように，明るく元気に前向きに歩いていきたい」などの感想があった。

（４）道徳の授業公開

目の不自由な人に手を差し伸べたいという気持ちをもっている「ぼく」が，その人と関わる勇気が出ない。葛藤の場面では，「知らない人には声をかけづらい。」「遅くなると，母に心配をかける。」などと，主人公に共感していた。思い切って声をかけた場面では，「横断歩道を渡りたいのに渡れないのはかわいそう。」「困っている人，体の不自由な人を放っておくわけにはいかない。」「車にひかれないように助けたい。」という考えから「声をかけてよかった。」と感じていた。

Ⅱ　今後の課題

１　両腕がないなどの「大きな個人差」については，「かわいそう」と感じる人が多い。それを克服した人に対しては「すごい」と思う人がほとんどである。しかし，世の中には，「すごい」と思われるまでは克服しきれていないけれどもがんばっている人が大多数ではないだろうか。そういった人たちに対しても，「かわいそう」だけではいけないと思う。自分にできることをほんの少しずつ行う勇気をもてるようにさせたい。

また，性格などの「小さな個人差」も認め合い，助け合っていこうとする児童を育てたい。

２　情報を保護者に伝えるだけでなく，保護者の声ももっと掲載することも必要であると思う。

Ⅲ　人権コーナー設置の様子　（右写真）